なっとくんの

山口県立山口博物館　学校地域連携担当

2017年　7月　8日　No.184

なるほどなっとくニュース

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

CM Community Museum 地域の宝 学校の宝

シンボルツリーは 葉に特徴がある「なぎの木」

出前授業で訪れた山口市立上郷小学校にはシンボルの木があります。それは、「なぎの木」です。ナギはマキ科の常緑高木（1年中緑の葉を付ける背の高い木）で、特徴的なその葉の形は、楕円形で広葉樹のように見えますが、マツなどと同じ針葉樹に分類されます。葉脈（水分・養分の通う、葉の筋）が縦方向に平行になっています（平行脈）。そのため縦に引っ張ってもなかなか切れません。ナギは古くから神社に植えられて、その葉をお守りにすることもあります。

上郷小学校には、何本ものナギの木が植えられていています。天に向かって堂々と伸びている様子は、子どもが元気に成長する様子をイメージさせます。山口市小郡岩屋のナギは、「小郡のナギ自生北限地帯」として国指定の天然記念物になっています。

校内に育つナギの木

平行脈の見られる葉

山口市小郡文化資料館では、林勇蔵（1813-1899）が紹介されていました。林勇蔵は、山口市矢原に生まれ、14歳で庄屋である林家の養子となります。17歳で小郡宰判（江戸時代の行政区分）の役所（小郡勘場）に勤め、19歳で庄屋役の代行になっています。その後、大庄屋（庄屋の代表）として、郷土に尽くしました。その業績として「農業用水をひく椎ノ木峠トンネル」「農民の立場に立った地租改正」「氾濫を防ぐ椹野川の改修」などが挙げられます。当時、長州藩は幕府に従う保守派が政治を行っていましたが、高杉晋作の奇兵隊をはじめとする改革派が藩の方針を武備恭順に変えようとしていました。その支援を藩の命令に背いて行ったのです。この諸隊を助けたことが、長州藩を変え明治維新のきっかけの１つとなりました。参考文献『林勇蔵翁』林勇蔵翁没後百年記念顕彰の会

山口市小郡文化資料館

林勇蔵座像

山口市小郡文化資料館提供

林勇蔵翁座像（小郡上郷）

博物館の出前授業では、葉脈を標本にするプログラムを実施しています。お電話でご確認ください。